

第3回 ぬかびら源泉郷地区景観整備構想策定委員会

開催日時:平成 26 年 6 月 18 日(水) 13:30~15:30

開催場所:糠平温泉文化ホール

出席者:【委員】上士幌町観光協会 市田雅之氏、中村健次氏

ぬかびら源泉郷行政区 二瓶勝善氏、鷲北強氏、小野内勝氏、

ぬかびら源泉郷旅館組合 蟹谷吉弘氏、中村達氏

【オブザーバー】環境省北海道地方環境事務所、十勝西部森林管理署東大雪支署、
十勝総合振興局環境生活課

【事務局】上士幌町、株式会社地域環境計画

第3回構想策定委員会 議事概要

1. 第2回策定委員会のふりかえり

◇ 事務局から第2回ぬかびら源泉郷地区景観整備構想策定委員会のふりかえりを行い、情報の共有を図りました。

2. ぬかびら源泉郷地区の景観整備構想(案)に係る意見交換

①景観整備構想全体(案)、及び中央園地及び旧大雪グランドホテル跡地の景観整備構想(案)について

◇ 事務局から、「ぬかびら源泉郷地区の景観整備方針(案)」(資料2、資料3-1、資料3-2)、及び「中央園地及び旧大雪グランドホテル跡地の景観整備構想(案)」(資料4)についての説明を行い、基本方針や全体構想、整備の優先順位などについて、以下のとおり意見交換を実施しました。

【景観整備構想全体(案)について】

- ・ぬかびら源泉郷の「ぬかびら “らしさ”」を表現する必要がある。
- ・ぬかびら源泉郷の“らしさ”は、まず大自然に囲まれていることである。
- ・ぬかびら源泉郷の温泉の特徴としては、温泉のお湯(泉質)があげられる。ぬかびらは源泉かけ流しであり、この特徴を生かして活用していきたいと考えている。なお、このお湯(泉質)については、全国800箇所近い温泉を巡っている温泉ジャーナリストにも褒めていただいている。
- ・ぬかびら温泉郷は、整備を進めても目的地とならない限り、集客は見込めないと考えている。そのため、旅行者が足を運ぶための目的を作ってあげる必要がある。このようなことを考えると、ぬかびら源泉郷は下駄履きで散歩できる程度のコンパクト感を前面に出した、“湯めぐり”のできる温泉地とするのが良い。こうなると、中央園地と大雪グランドホテル跡地は、湯めぐりをする方々が休む場所、夕涼みをする場所、つまり滞留拠点として活用するのがよいと考える。
- ・日本の観光地は宿泊が前提として整備されているので、温泉街づくりとしては夜間の活動に重点が置かれる傾向があり、昼間は素っ気なさを感じることが多い。そのため、昼間が楽しくなるような仕組みづくりが必要である。この仕組みによって、宿泊してみたいと思っただけの旅行者が多くなって人で賑わい、昼間の温泉街が楽しくなると、飲食店なども活気づくと考える。

- ・これからは、日本人やアジアの方々だけではなく、欧米の方々にも来ていただきたいと考えている。そのため、ゆったりとした時間を過ごすことのできる時間の過ごし方を提案できる人材を育てていくことも必要であると考えます。
- ・ぬかびら源泉郷は、大雪山国立公園の東の玄関口であり、各所の登山口まで2時間以内で行くことができる魅力的な場所である。登山者がぬかびら源泉郷を利用するパターンは様々であり、道外から来た登山者はぬかびら源泉郷を拠点として複数箇所の登山をしたり、また道内から来た方は前泊利用したり、下山後に温泉のみを利用する方もいる。いずれにしても、温泉街の滞留拠点として位置づける中央園地と登山のための情報発信拠点となるひがし大雪自然館とリンクさせていく必要がある。
- ・ネイチャートレイルは、本格的ではないがよい自然である。ただし、入り口が分かりづらく、倒木もあり、現状では子供の利用は危ないと思う。しかし、若干手を加えれば、気軽に利用できる魅力的な場所になると思う。認知度を高めることも必要である。
- ・観光客に「小鳥の村、ネイチャートレイルの出発点はどこか？」と問われることがあるが、現状では答えることができない。そのため、これから再整備する中央公園と大雪グランドホテル跡地は、ぬかびら源泉郷におけるあらゆる物事の拠点となるべきである。
- ・ランドマーク的な施設があってもよいが、“何もない”のがぬかびら源泉郷の特徴でもある。必要最小限の自然に近い形での整備としていただきたい。
- ・旅行先において、管理がされていない町並みをみると、発展性がないと感じる。ぬかびら源泉郷では、大雪グランドホテルが当てはまる。また、大雪グランドホテルは安全面、景観阻害からみても、ぬかびら源泉郷の発展を阻害する要因である。
- ・また、他にも空家や廃屋もある。これらの対応については、役場や地域でそれぞれ役割があると思うが、役場としては今回の再整備にあたって、ぬかびら源泉郷のイメージダウンになるものも一体として捉え、進めていきたいと考えている。
- ・室内ゲートボール場も廃屋の対象と考えている。
- ・すべての計画を同時に進めていくことは、不可能である。そのため、旅行者の滞留拠点となる中央園地・大雪グランドホテル跡地の再整備を最優先課題とし、その後中央園地・大雪グランドホテル跡地と自然館とを結ぶ歩道(町道糠平北区7号線)といった優先順位をつけるのがよい。
- ・利用者が自由に焼き台を持ってきて、焼き肉ができるような施設はやめてほしい。
- ・旅館で自転車を用意するなど、自転車で温泉街を巡ることができる環境を整えることも考えられる。将来的には自転車でダムサイトまで行くことができるとよい。

【中央園地及び旧大雪グランドホテル跡地の景観整備構想(案)について】

- ・配布している「資料-4 中央園地再整備・旧大雪グランドホテル跡地整備イメージ(案)」について、この資料のなかには現在、居住していたり、営業されている店舗の敷地が含まれている。しかし、これは将来的な整備をイメージしており、具体案としてすぐに着手するというわけではないので、この点を了承しておいていただきたい。なお、これらの敷地部分を含んだ、将来的な拡張・整備内容を記載することを盛り込んだ資料の作成にあたっては、各地権者の方々か

ら了承は得ている。

- ・整備イメージについて、中央園地や旧大雪グランドホテル跡地がこのようなイメージなることはすばらしいと思う。その上で、ネイチャートレイル等の活用に広がればよい。
- ・旧大雪グランドホテル跡地の源泉は、410程度はあるので、複数の足湯を整備することは可能である。
- ・現状の整備イメージをみると、足湯は国道側から認識しづらいことから、集客のための「さくら」としての効果は低いと考える。したがって、足湯の配置は再検討が必要であると考え。また、カラフルなハンモックやロッキングチェアも人目を引くが、ぬかびら源泉郷に派手なものとは似合わないと考える。
- ・中央公園は、現状では木が生い茂っており入りにくく、また公共の場であるという印象もない。
- ・木製のデッキなどは耐久年数が10年程度であるのに対して、コンクリートの耐久年数は30～40年である。そのため、維持管理を考慮したデザインを考える必要がある。
- ・気持ち良く滞留できるような場所で、コーヒーなどが飲める施設があるとよい。また、ぬかびら源泉郷の冬は厳しいので、まずは通年ではなく5～10月の7カ月間を対象に考えるとよい。
- ・足湯やテラスは、今ではどこにでもある施設となっており、人を引き付ける魅力が必要であると考え。足湯よりも、冬季でも活用できる共同浴場があっても良いと思う。
- ・花や樹木は人を呼ぶので、いろいろな樹種を植栽するとよい。
- ・ぬかびら源泉郷は知名度が低いので、整備のみならず、情報発信についても積極的に行う必要がある。
- ・駐車場については、多くの台数分は必要ないが、旧東大雪博物館の駐車場の活用も含め、整備後の拠点の雰囲気も考慮しながらさらに検討する必要がある。

②管理運営の方向性について

- ・小鳥の村やネイチャートレイルは魅力的であると感じるが、現在は手入れが不十分と感じる。また、湖畔園地についてもベンチや橋が老朽化し維持管理はされていない状況にある。湖をみられる場所として手直しが必要である。
- ・整備した施設の維持管理が疎かになっている。そのため、今回の整備にあたっては、自分たちでしっかりと維持管理していくという姿勢を示さないと、よいものをつくりあげることができない。まずは、現状で整備されている施設等の維持管理について、みんなの課題として捉え、そこをしっかりと実行すべきである。
- ・地元は自分たちで体を動かしてできることはたくさんあるので、積極的に関わっていきたいと考えている。
- ・湖畔園地の管理主体である十勝総合振興局環境生活課としては、一部施設の撤去も進めている。今後、改善整備を実施されるようなことがあれば、協議しながら一緒に進めていきたいと考えている。ただし、環境省との連絡調整もあるので、実施にあたっては事前に相談させていただきたい。
- ・十勝西部森林管理署東大雪支署としては、ネイチャートレイルなどの整備について、みなさんと共同しながら進めていきたいと考えている。

- ・今回の事業は、地元に住んでいる人間の本気度が試されている。言葉だけではなく、行動することが求められている。すべての主体が一体となって、本気で進めていきましょう。

3. 地元説明会の開催について

◇今後、開催を予定している住民説明会にあたっては、今回ご提示した資料を基礎に、近々に動くことを中心に、具体的で分かりやすい資料づくりを行います。



第3回委員会の実施状況